

# 森崎和江の越境する連帯の思想

## —「からゆきさん」の近代と現代—

「からゆきさん」は、日本軍「慰安婦」の前史として安易に位置づけられたり、また1980年代にはアジア各国からの女性の〈出稼ぎ〉労働者を意味する「ジャパゆきさん」の由来にされたりもしてきました。本ワークショップは、「からゆきさん」に関する言説の流用について問いただし、植民地主義への視点が鋭く投影されている森崎和江の『からゆきさん』に軸足をおきながら、その連帯の思想を貫く「越境」の意味を浮かび上がらせてみます。

### 第1部 「からゆきさん」から「ジャパゆきさん」へ

嶽本新奈（明治学院大学 学振PD）

「からゆきさん」にとっての「越境」とは何か—「連帯」を阻むもの

大野聖良（お茶の水女子大学）

「ジャパゆきさん」とは誰か—日本の女性運動の視点から

### 第2部 「日韓連帯」の思想—森崎和江と富山妙子

玄武岩（北海道大学）

森崎和江の〈原罪を葬る旅〉—植民者二世がたどるアジア・女性・交流の歴史

李美淑（立教大学）

画家・富山妙子と「帰らぬ女たち」

コメンテーター：水溜真由美（北海道大学）

司会：松井理恵（北星学園大学）

日時：2018年8月8日(水) 13:00~17:30

場所：北海道大学 遠友学舎 (北18条西7丁目)